

まとめ

本報告書は、本編である「平成20年度PRTR届出データの過年度との比較報告書」の一部を速報版としてまとめたものです。過去6年間の届出データを解析すると、平成15年度から平成19年度までは、届出件数は横ばいに推移し、排出量・移動量は年数%の割合で減少していましたが、平成20年度は平成19年度と比べて、届出件数が1,373件の減少、排出量は15%、移動量は9.8%と例年にない大きな減少であることがわかりました。特に大気への排出量が31,000トン(15%)の減少、廃棄物としての移動量が21,000トン(9.8%)の減少と目立っています。この大きな変化はPRTRデータを活用する幅広い関係者の方々の大きな関心となることから、独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE:National Institute of Technology and Evaluation)では、おおまかに要因を解析し、速報版として公表しました。

大気への排出量は平成20年度に大きな減少がありましたが、6年間をみても減少傾向にあり、6年間で73,000トン(29%)減少しています。大気への排出量の減少要因は、上位物質であるトルエン、キシレン及び塩化メチレンの減少が大きく影響しています。また、これら3物質の減少は上位業種であるプラスチック製品製造業、輸送用機械器具製造業、金属製品製造業、出版・印刷・同関連産業、化学工業等の減少が目立っています。これらの業種を考慮すると、減少量の大きい物質は溶剤、洗浄溶剤、塗装・塗料溶剤、インキ溶剤、接着剤等に幅広く使用されていることから、国・地方自治体や業界団体でのVOC排出量削減の取り組みの成果がPRTR届出に反映されていると考えられます。

また、排出量の減少の要因として、生産活動の低下による排出量の減少も考えられます。工業統計速報(平成21年10月2日公表)によると、平成20年度の製造品出荷額は前年比0.9%の減少と前年割れとなっており、平成20年度の届出件数や排出量・移動量の減少につながったと推測されます。特に業種別の大気への排出量と製造品出荷額比の推移をみると、6年間で比の減少率が一定であることから、大気への排出量が平成20年度に例年と比べて大きく減少した要因は、生産量の減少により引き起こされた減少と推測されます。

本報告書(速報版)では、時間との関係上、一部分の情報しか解析できておりません。より詳細な解析結果については、今後取りまとめる本編の「平成20年度PRTR届出データの過年度との比較報告書」を参照して頂ければと思います。

なお、NITEでは、今後も引き続きPRTR届出データの動向を把握し、化学物質の適切な管理に貢献していきたいと考えております。

平成22年3月

独立行政法人製品評価技術基盤機構 化学物質管理センター